

Cisco IOS ソフトウェアが稼働する Catalyst 6500/6000 シリーズ スイッチでの一般的なエラーメッセージ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[%%C6KPWR-SP-4-UNSUPPORTED: unsupported module in slot \[num\], power not allowed: \[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%DUAL-3-INTERNAL: IP-EIGRP 1: Internal Error](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%EARL L3 ASIC-SP-4-INTR_THROTTLE: Throttling "IP_TOO_SHRT"](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%EARL L3 ASIC-SP-3-INTR_WARN: EARL L3 ASIC: Non-fatal interrupt \[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%EARL_NETFLOW-4-TCAM_THRLD: Netflow TCAM threshold exceeded, TCAM Utilization \[\[dec\]%](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%ETHCNTR-3-LOOP_BACK_DETECTED : Keepalive packet loop-back detected on \[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[loadprog: error - on file open boot: cannot load "cisco2-Cat6k-MSFC"](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%L3 ASIC-DFC3-4-ERR_INTRPT: Interrupt TF_INT: FI_DATA_INT](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%MLS_STAT-SP-4-IP_LEN_ERR: MAC/IP length inconsistencies](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%MLS_STAT-SP-4-IP_CSUM_ERR: IP checksum errors](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%MCAST-SP-6-ADDRESS_ALIASING_FALLBACK](#)

[問題](#)

[説明](#)

[c6k_pwr_get_fru_present\(\): can't find fru_info for fru type 6, #](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%MROUTE-3-TWHEEL_DELAY_ERR](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%MCAST-SP-6-GC_LIMIT_EXCEEDED](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%MLS_STAT-4-IP_TOO_SHORT: Too short IP packets received](#)

[問題](#)

[説明](#)

[Processor \[number\] of module in slot \[number\] cannot service session requests](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%PM_SCP-1-LCP_FW_ERR: System resetting module \[dec\] to recover from error: \[\[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%PM_SCP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module \[dec\] is experiencing the following error: \[\[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%PM_SCP-SP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module \[dec\] is experiencing the following error: \[\[chars\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%PM_SCP-SP-4-UNK_OPCODE: Received unknown unsolicited message from module \[dec\].](#)

[opcode \[hex\]](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%PM_SCP-SP-3-TRANSCEIVER_BAD_EEPROM: Integrity check on transceiver in LAN port 5/2 failed: bad key](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%PM_SCP-SP-3-LCP_FW_ABLC: Late collision message from module \[dec\], port:035](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%PM-3-INVALID_BRIDGE_PORT: Bridge Port number is out of range](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%QM-4-TCAM_ENTRY: Hardware TCAM entry capacity exceeded](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%slot_earl_icc_shim_addr: Slot \[num\] is neither SuperCard nor Supervisor - Invalid slot](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected:
TM_NPP_PARITY_ERROR](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%SYSTEM_CONTROLLER-SW2_SPSTBY-3-ERROR: Error condition detected:
TM_NPP_PARITY_ERROR](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[SP: Linecard endpoint of Channel 14 lost Sync. to Lower fabric and trying to recover now!](#)

[問題](#)

[説明](#)

[%%SYSTEM-1-INITFAIL: Network boot is not supported](#)

[問題](#)

[説明](#)

[解決策](#)

[CPU_MONITOR-3-TIMED_OUT または CPU_MONITOR-6-NOT_HEARD](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%% Invalid IDPROM image for linecard](#)

[問題](#)

[説明](#)

回避策

%%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD or %CPU_MONITOR-SP-3-TIMED_OUT

問題

説明

%%C6KPWR-4-DISABLED: Power to module in slot [dec] set [chars]

問題

説明

回避策

ONLINE-SP-6-INITFAIL: Module [dec]: Failed to [chars]

問題

説明

回避策

FM_EARL7-4-FLOW_FEAT_FLOWMASK_REQ_FAIL

問題

説明

回避策

MCAST-2-IGMP_SNOOP_DISABLE

問題

説明

回避策

C6KERRDETECT-2-FIFOCRITLEVEL: System detected an unrecoverable resources error on the active supervisor pinnacle

問題

説明

回避策

%%C6KERRDETECT-SP-4-SWBUSSTALL: The switching bus is experiencing stall for 3 seconds

問題

説明

SP-RP Ping Test[7]: Test skipped due to high traffic/CPU utilization

問題

説明

回避策

SW_VLAN-4-MAX_SUB_INT

問題

説明

回避策

MCAST-6-L2_HASH_BUCKET_COLLISION

問題

説明

回避策

%%QM-4-AGG_POL_EXCEEDED: QoS Hardware Resources Exceeded : Out of Aggregate policers

問題

説明

回避策

[%%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: is not compatible with Gi2/1 and will be suspended \(MTU of Gi2/2 is 1500, Gi2/1 is 9216\)](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: Gi1/4 is not compatible with Gi6/1 and will be suspended \(flow control send of Gi1/4 is off, Gi6/1 is on\)](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%CFIB-7-CFIB_EXCEPTION: FIB TCAM exception, Some entries will be software switched](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[Module Fails the TestMatchCapture Test](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%CONST_DIAG-SP-3-HM_PORT_ERR: Port 5 on module 2 failed 10 consecutive times. Disabling the port](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%CONST_DIAG-SP-4-ERROR_COUNTER_WARNING: Module 7 Error counter exceeds threshold, system operation continue](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[%%SYS-3-PORT_RX_BADCODE: Port 3/43 detected 7602 bad code error\(s\) in last 30 minutes](#)

[問題](#)

[説明](#)

[回避策](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco IOS(R) システム ソフトウェアが稼働している Catalyst 6500/6000 シリーズ スイッチで発生する一般的な syslog メッセージとエラー メッセージについて、簡単に説明しています。この資料に現れないエラーメッセージがある場合 [Cisco CLI アナライザ \(登録ユーザのみ\)](#) を使用して下さい。このツールを使用すると、Cisco IOS ソフトウェアや Catalyst OS (CatOS) ソフトウェアによって生成されたエラーメッセージの意味を調べることができます。

注: このドキュメントに記されている syslog メッセージやエラーメッセージの形式は、若干、異なる場合があります。この違いは、スイッチのスーパーバイザエンジンで稼働しているソフトウェア リリースの違いによって生じるものです。

注: Catalyst 6500/6000 では、次の最低限のロギング設定を使用することをお勧めします。

- スイッチで日付と時刻を設定するか、Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) を使用して NTP サーバから日付と時刻を取得するようにスイッチを設定します。
- ロギングまたはロギングのタイム スタンプが有効であることを確認します。デフォルトでは両方とも有効になっています。
- 可能であれば、syslog サーバにログを記録するようにスイッチを設定します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

%%C6KPWR-SP-4-UNSUPPORTED: unsupported module in slot [num], power not allowed: [chars]

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- C6KPWR-SP-4-UNSUPPORTED: unsupported module in slot [num], power not allowed: [chars]

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Oct 14 16:50:13: %C6KPWR-SP-4-UNSUPPORTED: unsupported module in slot 2, power not allowed:
Unknown Card Type
```

```
Oct 14 16:50:20: %C6KPWR-SP-4-UNSUPPORTED: unsupported module in slot 2, power not allowed:
Unknown Card Type
```

説明

このメッセージは、あるスロットに装着されているモジュールがサポート対象でないことを示しています。 [num] はスロット番号、 [chars] はエラーの詳細です。

回避策

スーパーバイザ エンジンのソフトウェアを、そのハードウェア モジュールをサポートするバージョンにアップグレードします。 関連リリースについては、『[Catalyst 6500 シリーズ スイッチ リ](#)

[リリースノート](#)』の「サポート対象ハードウェア」セクションを参照してください。メッセージで説明されている問題を解決するには、次のいずれかの操作を行います。

- スイッチ ファブリック モジュールを取り付ける、または交換する。
- サポートされていないモジュールを他のスロットに移動させる。

%DUAL-3-INTERNAL: IP-EIGRP 1: Internal Error

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %DUAL-3-INTERNAL: IP-EIGRP 1: Internal Error

説明

このエラー メッセージは、Cisco IOS ソフトウェアに不具合があることを示しています。この不具合は次のリリースで修正されています。

- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(0.4)
- Cisco IOS(R) ソフトウェア リリース 12.1(6.1)
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(0.5)T
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(6.5)E
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(6.5)EC
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(6)E02
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(0.18)S
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(2)B
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(15)ZN

回避策

Cisco IOS ソフトウェアを、これらのリリースか最新のリリースにアップグレードしてください。

%EARL_L3_ASIC-SP-4-INTR_THROTTLE: Throttling "IP_TOO_SHRT"

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %EARL_L3_ASIC-SP-4-INTR_THROTTLE: Throttling "IP_TOO_SHRT"

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Jul 25 12:00:40.228 AEST: %EARL_L3_ASIC-SP-4-INTR_THROTTLE: Throttling "IP_TOO_SHRT"Intr.  
Exceeded permitted 1000/100 intrs/msec
```

説明

このメッセージは、スイッチのフォワーディング エンジンで、許可されている IP パケットの最小長よりも短い IP パケットが受信されたことを意味しています。スイッチではこのパケットを廃棄します。以前のバージョンでは、このようなパケットは何のメッセージもなく廃棄され、フォワーディング エンジンの統計値としてカウントされていました。新しいバージョンでは、このエラー メッセージは 30 分ごとに 1 回、syslog に記録されます。スイッチのフォワーディング エンジンでこのような種類の IP パケットが受信される原因としては、次の可能性があります。

- 不正なネットワーク インターフェイス カード (NIC) ドライバ
- NIC ドライバの不具合
- 不正なアプリケーション

スイッチでは、単にこのような「不正」なパケットを受信したことを報告し、これらを廃棄しようとするだけです。

回避策

この問題の原因はスイッチの外部にあります。残念なことに、フォワーディング エンジンでは、不正なパケットを送信しているデバイスの発信元 IP の記録は保存されません。このようなデバイスを検出する唯一の方法は、スニファを使用して送信元アドレスを突き止め、そのデバイスを交換することです。

%%EARL_L3_ASIC-SP-3-INTR_WARN: EARL L3 ASIC: Non-fatal interrupt [chars]

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- EARL_L3_ASIC-SP-3-INTR_WARN: EARL L3 ASIC: Non-fatal interrupt [chars]

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Apr 20 17:53:38: %EARL_L3_ASIC-SP-3-INTR_WARN: EARL L3 ASIC:
Non-fatal interrupt Packet Parser block interrupt
Apr 20 19:13:05: %EARL_L3_ASIC-SP-3-INTR_WARN: EARL L3 ASIC:
Non-fatal interrupt Packet Parser block interrupt
```

説明

エラー メッセージ「%EARL_L3_ASIC-SP-3-INTR_WARN」は、Enhanced Address Recognition Logic (EARL) レイヤ 3 (L3) の特定用途向け集積回路 (ASIC) で、重大ではないが予期しない状況が検出されたことを意味します。これは、不正なパケット、おそらくレイヤ 3 の IP チェックサム エラーがあるパケットが受信され、廃棄されたことを示しています。この問題の原因は、不正なパケットを送信しているネットワーク上のデバイスです。不正なパケットを送信する原因として特に考えられるのは、次の項目です。

- 不正な NIC
- 不正な NIC ドライバ
- 不正なアプリケーション

以前の Cisco IOS ソフトウェア リリースでは、これらのパケットは通常はログに記録されずに廃棄されます。Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2SX 以降では、この問題についてのエラー メッセージのログを記録する機能があります。

回避策

このメッセージは情報としての意味しかありません。回避策としては、次の2つの方法のいずれかを実行してください。

- ネットワーク スニファを使用して、エラー パケットの送信元を調べます。次に、送信元のデバイスまたはアプリケーションの問題を解決します。
- スイッチのハードウェアにおいて、次の項目に対するレイヤ 3 エラー チェックをディセーブルにします。パケット チェックサム エラーパケット長エラー送信元の IP アドレスと宛先の IP アドレスが同一のパケットこれらのエラー チェックを停止するには、次の例のように `no mls verify` コマンドを使用してください。
`Switch(config)#no mls verify ip checksum !--- This configures the switch to discontinue checks for packet checksum errors.`
`Switch(config)#no mls verify ip length {consistent | minimum} !--- This configures the switch to discontinue checks for packet length errors.`
`Switch(config)#no mls verify ip same-address !--- This configures the switch to discontinue checks for packets that have the same source and destination IP addresses.`

%%EARL_NETFLOW-4-TCAM_THRLD: Netflow TCAM threshold exceeded, TCAM Utilization [[dec]%

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- EARL_NETFLOW-4-TCAM_THRLD: Netflow TCAM threshold exceeded, TCAM Utilization [[dec]%

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Aug 24 12:30:53: %EARL_NETFLOW-SP-4-TCAM_THRLD: Netflow TCAM threshold exceeded, TCAM Utilization [97%]  
Aug 24 12:31:53: %EARL_NETFLOW-SP-4-TCAM_THRLD: Netflow TCAM threshold exceeded, TCAM Utilization [97%]
```

注: この特定のエラー メッセージをフィルタリングする場合は、同じ重大度レベルを持つすべてのエラー メッセージをフィルタ処理することに注意する必要があります。特定のログ メッセージは、同じ重大度レベルの下にある他のログに影響を与えずにフィルタ処理することはできません。

説明

このメッセージは、NetFlow の ternary content addressable memory (TCAM) がいっぱいに近いことを示しています。アグレッシブ エージングが一時的にイネーブルになります。NetFlow マスクを FULL モードに変更すると、非常に多数のエントリによって NetFlow の TCAM がオーバーフローする場合があります。この情報をチェックするには、`show mls netflow ip count` コマンドを発行します。

Supervisor Engine 720 では、NetFlow テーブルの使用率が 30 秒ごとにチェックされます。テーブルサイズが約 90 % に達すると、スーパーバイザ エンジン はアグレッシブ エージングを有効にします。テーブルがほぼいっぱいになると、作成できない新規アクティブ フローがあるというのが、アグレッシブ エージングの考え方です。これにより、より多くのアクティブ フローのためのスペースを確保するために、アクティブ度の低いフロー (あるいは非アクティブなフロー

)を積極的にエージアウトさせるということは意味があります。

PFC3a と PFC3b では、各ポリシー フィーチャ カード (PFC) NetFlow テーブル (IPv4) の容量は 128,000 フローです。 PFC3bXL の場合、この容量は 256,000 フローです。

回避策

この問題の発生を防ぐには、FULL NetFlow モードをディセーブルにします。 no mls flow ip コマンドを発行します。

注: no mls flow ip コマンドは、通常はパケットのフォワーディングに影響を及ぼしません。これはパケット フォワーディング用の TCAM と NetFlow アカウンティング用の TCAM とは別であるためです。

この問題から回復するには、MLS ファスト エージングをイネーブルにします。 MLS ファスト エージング タイムをイネーブルにする際に、最初は値を 128 秒に設定します。 MLS キャッシュのサイズが引き続き 32K エントリを超える場合は、キャッシュ サイズが 32K を下回るようになるまで設定を下げます。 それでもキャッシュが引き続き 32K エントリを超える場合は、通常の MLS エージング時間の設定を下げます。 8 秒の倍数になっていないエージングタイム値は、すべて 8 秒の倍数の最も近い値に調整されます。

```
Switch#configure terminal Switch(config)#mls aging fast threshold 64 time 30
```

他の回避策は、service intrenal がイネーブルになっている場合はディセーブルにして、full flow が不要な場合は mls flow ip interface-full を削除します。

```
Switch(config)#no service internal Switch(config)#mls flow ip interface-full
```

%ETHCNTR-3-LOOP_BACK_DETECTED : Keepalive packet loop-back detected on [chars]

問題

スイッチから次のエラー メッセージが出され、ポートが強制的にリンクダウンの状態になります。

- %ETHCNTR-3-LOOP_BACK_DETECTED : Keepalive packet loop-back detected on [chars]
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Oct 2 10:40:13: %ETHCNTR-3-LOOP_BACK_DETECTED: Keepalive packet loop-back detected on  
GigabitEthernet0/1  
Oct 2 10:40:13: %PM-4-ERR_DISABLE: loopback error detected on Gi0/1, putting Gi0/1 in  
err-disable state
```

説明

この問題は、キープアライブ パケットが、そのキープアライブを送信したポートにループバックされることが原因で発生します。 キープアライブは、Catalyst スイッチで、ネットワーク上でループが発生しないようにするために送信されます。 キープアライブはすべてのインターフェイスでデフォルトでイネーブルにされています。 この問題は、ループを検出して遮断した、ループの発生源ではないデバイスで発生します。

回避策

[no keepalive](#) インターフェイス コマンドを発行して、キープアライブをディセーブルにします。キープアライブをディセーブルにすることで、インターフェイスが errdisable になることを防ぐことができますが、ループを排除することはできません。

注: Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(x)SE ベースのリリース以降では、デフォルトではキープアライブがファイバ インターフェイスやアップリンク インターフェイスに送られないようになっています。

loadprog: error - on file open boot: [cannot load "cisco2-Cat6k-MSFC"](#)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- loadprog: error - on file open boot: cannot load "bootflash:c6msfc2-boot-mz.121-8a.EX"

説明

この問題は、内部 64 バイト境界近辺のデバイスに境界非整列の書き込みを行った場合にのみ発生します。この問題は、次のいずれかの状況で発生します。

- クラッシュしたダンプ ファイルを書き込んだときファイルの書き込みの際に、何らかの原因によってシステムがクラッシュしたとき
- CatOS から Cisco IOS ソフトウェアへの移行中にコードが破損したとき

回避策

回避策は、デバイス ドライバを修正して、境界非整列のアクセスを正しく処理できるようにします。CatOS から Cisco IOS ソフトウェアへの移行時に、コードが破損したことが原因でエラーが発生した場合は、フラッシュを消去して、有効な CatOS ソフトウェア イメージを新しくダウンロードしてください。

[%L3_ASIC-DFC3-4-ERR_INTRPT: Interrupt TF_INT: FI_DATA_INT](#)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %L3_ASIC-DFC3-4-ERR_INTRPT: Interrupt TF_INT: FI_DATA_INT occurring in EARL
%Layer 3 ASIC

説明

このエラー メッセージは、レイヤ 3 (L3) フォワーディングの application-specific integrated circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路) でエラーが発生したことを示しています。基本的には、

一過性のトラフィックがこの ASIC を通過すると、スイッチにこのメッセージが表示されます。ソフトウェアは単に割り込み状態が発生したことを報告するだけです。この状態が発生するとすぐに、**show earl statistics** コマンドで表示されるカウンタの値が増加します。ソフトウェアがこのような状態から回復しようとするたびに、スイッチはこの syslog メッセージを生成します。通常、発生頻度が低いときには、このメッセージには情報としての意味がありません。しかし、このエラーメッセージが頻繁に発生するときには、ハードウェアに問題がある可能性があります。

show earl statistics コマンドで出力されるカウンタの値を確認します。カウンタの値が急速に増加しているときには、ハードウェアに問題がある可能性があります。

%MLS_STAT-SP-4-IP_LEN_ERR: MAC/IP length inconsistencies

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %MLS_STAT-SP-4-IP_LEN_ERR: MAC/IP length inconsistencies

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
May 29 21:54:14 JST: %MLS_STAT-SP-4-IP_LEN_ERR: MAC/IP length inconsistencies
May 29 23:10:44 JST: %MLS_STAT-SP-4-IP_LEN_ERR: MAC/IP length inconsistencies
```

説明

これらのメッセージは、受信されたパケットの IP 長が、そのパケットの MAC 長と一致していないことを示しています。スーパーバイザエンジンは、このようなパケットを廃棄します。パケットが廃棄されるため、スイッチに対する悪影響はありません。スイッチがこのメッセージを表示するのは、情報としての目的だけです。この問題の原因は、不正なパケットを送信しているネットワーク上のデバイスです。不正なパケットを送信する原因として特に考えられるのは、次の項目です。

- 不正な NIC
- 不正な NIC ドライバ
- 不正なアプリケーション

ネットワーク スニファを使用して、エラーパケットの送信元を調べます。次に、送信元のデバイスまたはアプリケーションの問題を解決します。

もう 1 つの回避策は、スイッチで次のチェックをしないように、スイッチの設定を変えることです。

- パケット チェックサム エラー
- パケット長エラー
- 送信元の IP アドレスと宛先の IP アドレスが同一のパケット

スイッチがこれらをチェックしないようにするには、次のコマンドを使用します。

- Switch(config)#no mls verify ip checksum !--- This configures the switch to discontinue checks for packet checksum errors.
- Switch(config)#no mls verify ip length !--- This configures the switch to discontinue checks for packet length errors.
- Switch(config)#no mls verify ip same-address !--- This configures the switch to discontinue checks for packets that have the

!--- same source and destination IP addresses.

%MLS_STAT-SP-4-IP_CSUM_ERR: IP checksum errors

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %MLS_STAT-SP-4-IP_CSUM_ERR: IP checksum errors
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Jan 20 12:48:52: %MLS_STAT-SP-4-IP_CSUM_ERR: IP checksum errors
Jan 20 14:49:53: %MLS_STAT-SP-4-IP_CSUM_ERR: IP checksum errors
```

説明

これらのメッセージは、スイッチが、不正なチェックサム値を持つ IP パケットを受信していることを示しています。これらのパケットはスイッチによって廃棄されるため、スイッチに対する悪影響はありません。スイッチがこのメッセージを表示するのは、情報としての目的だけです。この問題の原因は、不正なパケットを送信しているネットワーク上のデバイスです。不正なパケットを送信する原因として特に考えられるのは、次の項目です。

- 不正な NIC
- 不正な NIC ドライバ
- 不正なアプリケーション

回避策

回避策としては、次の 2 つの方法のいずれかを実行してください。

- ネットワーク スニファを使用して、エラー パケットの送信元を調べます。次に、送信元のデバイスまたはアプリケーションの問題を解決します。
- スwitchのハードウェアにおいて、次の 2 つの項目に対するレイヤ 3 エラー チェックをディセーブルにします。パケット チェックサム エラーパケット長エラーこれらのエラー チェックを停止するには、次の例に示すように、[no mls verify](#) コマンドを使用します。

```
Switch(config)#no mls verify ip checksum !--- This configures the switch to discontinue
checks for packet
checksum errors.Switch(config)#no mls verify ip length {consistent | minimum} !--- This
configures the switch to discontinue checks for packet
length errors.
```

%MCAST-SP-6-ADDRESS_ALIASING_FALLBACK

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %MCAST-SP-6-ADDRESS_ALIASING_FALLBACK:
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%MCAST-SP-6-ADDRESS_ALIASING_FALLBACK: Address Aliasing detected for
group 0100.5e00.0001 on vlan 632 from possible source ip 10.158.132.185 source
mac 0000.bea6.82e0
```

説明

このメッセージは、スイッチが、01-00-5e-00-00-xx の範囲にあるマルチキャスト MAC アドレスを宛先とする過剰なマルチキャストトラフィックを受信していることを示しています。このマルチキャストの範囲は、次のような Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) の制御トラフィック用に予約されています。

- Leave
- Join
- General query

スイッチの CPU は、通常は IGMP の制御トラフィックをすべて処理します。したがって、Cisco IOS ソフトウェアには、予約されているアドレスに宛てられた過剰な IGMP マルチキャストトラフィックを無視するメカニズムがあります。このメカニズムによって、CPU が高い負荷を受けないようになっています。このメカニズムを使用していることを、「フォールバックモード」と呼びます。

不正なマルチキャストトラフィックの発信元を調べます。次に、送信を停止するか、IGMP の制御データ空間を侵害しないようにストリームの特性を修正します。また、「[問題](#)」セクションのエラーメッセージも利用してください。このメッセージには、問題を発生させている可能性のあるネットワーク上の発信元が示されています。

c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6,

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6, #

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Mar 10 08:30:53: SP: c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6, #38
Mar 10 08:30:53: SP: c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6, #38
Mar 10 08:30:53: SP: c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6, #43
Mar 10 08:30:53: SP: c6k_pwr_get_fru_present(): can't find fru_info for fru type 6, #43
```

説明

このエラーメッセージが生成される原因は、Flex WAN モジュールで使用しているポートアダプタの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) ポーリングに対して、スイッチから不正な応答が返されたことです。このエラーメッセージは本質的に表面的なものであり、スイッチのパフォーマンスに悪影響を及ぼすような問題ではありません。この問題は次のリリースで修正されています。

- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(11b)E4
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(12c)E1
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13)E
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13)EC
- 以降のリリース

%MROUTE-3-TWHEEL_DELAY_ERR

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %MROUTE-3-TWHEEL_DELAY_ERR:
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%MROUTE-3-TWHEEL_DELAY_ERR: Exceeded maximum delay (240000 ms) requested: 7200000
```

説明

このメッセージは、高いホールドタイム値をアドバタイズする Protocol Independent Multicast (PIM) の join/prune パケットがスイッチで受信されていることを示しています。このパケットは、スイッチの OS で許可されている最大遅延 (4 分間) を超えるホールドタイム値をアドバタイズします。これらのパケットはマルチキャスト制御パケットであり、PIM、Distance Vector Multicast Routing Protocol (DVMRP; デイスタンスベクトル マルチキャスト ルーティング プロトコル)、およびその他のタイプがあります。

Catalyst 6500/6000 用の Cisco IOS ソフトウェアの新しいリリースでは、この最大遅延を 65,535 秒 (約 17 分) に増やしています。この問題は次のリリースで修正されています。

- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(12c)E
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(12)T01
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13)E
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13)EC
- 以降のリリース

回避策

プロトコルの標準によって推奨されているタイマーを使用するように、PIM パケットを生成しているサードパーティ製デバイスを設定します。

%MCAST-SP-6-GC_LIMIT_EXCEEDED

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %MCAST-SP-6-GC_LIMIT_EXCEEDED
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%MCAST-SP-6-GC_LIMIT_EXCEEDED: IGMP snooping was trying to allocate more Layer 2 entries than what=allowed (13000)
```

説明

このエラーメッセージが記録されるのは、スイッチの IGMP のスヌーピング機能によって、許可される最大数のレイヤ 2 (L2) エントリが作成された場合です。スイッチがマルチキャスト グル

ープ用に作成できる L2 エントリの最大数は、デフォルトで 15,488 エントリです。Cisco IOS ソフトウェアの新しいバージョンでは、ハードウェアにインストールされた L2 マルチキャスト エントリだけが上限に対してカウントされます。詳細は、Cisco Bug ID [CSCdx89380](#) ([登録ユーザ専用](#)) を参照してください。この問題は、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13)E1 以降で解決されています。

回避策

この L2 の制限を手動で上げることができます。これを行うには、`ip igmp l2-entry-limit` コマンドを発行します。

%MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Apr 19 22:14:18.237 EDT: %MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected:
TM_NPP_PARITY_ERROR
Apr 19 22:14:25.050 EDT: %MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected:
TM_NPP_PARITY_ERROR
Apr 19 22:15:20.171 EDT: %MISTRAL-SP-3-ERROR: Error condition detected:
TM_NPP_PARITY_ERROR
```

説明

このエラー メッセージは、スイッチ内部の Table Manager の次ページ ポインタでパリティ エラーが発生したことを示しています。スイッチで Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(8)E 以降が稼働している場合、スイッチはパリティ エラーを検出し、Mistral ASIC をリセットします。スイッチはリロードを行うことなく動作を継続できます。メモリのパリティ エラーの原因としては、ランダムに発生する静電気放電や、その他の外的要因が考えられます。このエラー メッセージが表示されたのが 1 回だけ、またはまれにしか表示されない場合は、スイッチの syslog を監視して、エラー メッセージが単発の事象であることを確認してください。これらのエラー メッセージが再発するようであれば、[Cisco テクニカル サポート](#) でサービス リクエストを作成してください。

%MLS_STAT-4-IP_TOO_SHRT: Too short IP packets received

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %MLS_STAT-4-IP_TOO_SHRT: Too short IP packets received
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
*Apr 1 10:30:35 EST: %MLS_STAT-SP-4-IP_TOO_SHRT: Too short IP packets received
```


説明

このメッセージは、スイッチのフォワーディング エンジンで、許可されている IP パケットの最小長よりも短い IP パケットが受信されたことを意味しています。スイッチではこのパケットを廃棄します。以前のバージョンでは、このようなパケットは何のメッセージもなく廃棄され、フォワーディング エンジンの統計値としてカウントされていました。この処理が該当するのは、7.x またはそれ以前のソフトウェア リリースと、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13E) またはそれ以前のリリースです。7.x より後のソフトウェア リリース、または Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(13E) より後のリリースでは、このメッセージは 30 分ごとに syslog に記録されます。

スイッチ側には何の影響もありません。スイッチ側ではこの不正なパケットを廃棄します。これはつまり、受信デバイスによって廃棄されていることになります。懸念事項は、不正なパケットを送信しているデバイスがあるということです。考えられる原因には、次のものがあります。

- 不正な NIC ドライバ
- NIC ドライバの不具合
- 不正なアプリケーション

ハードウェアの制限により、スーパーバイザ エンジンでは、不正なパケットを送信しているデバイスの発信元 IP、MAC アドレス、ポートの記録は保存されません。このようなデバイスを検出し、発信元アドレスを突きとめるには、パケット スニファリング アプリケーションを使用する必要があります。

「[問題](#)」セクションで示したメッセージは、スイッチから警告および情報を提供するものに過ぎません。送信元ポート、MAC アドレス、IP アドレスなどの情報はメッセージには含まれません。

この場合は、ネットワーク内でパケット スニファリング アプリケーションを使用します。いくつかのインターフェイスをシャットダウンしたり、ネットワークからデバイスを切り離したりして、誤動作しているデバイスを特定できるかどうかを判断してください。

Processor [number] of module in slot [number] cannot service session requests

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- Processor [number] of module in slot [number] cannot service session requests

説明

このエラーは、次の状況でセッションの確立を試みようとして、`session slot number processor number` コマンドを発行したときに発生します。

- スイッチへのログイン中に、セッションがすでに確立されているモジュールに対して、再度セッションを確立しようとしたとき。
- スロットに装着されている使用不可能なモジュールに対してセッションを確立しようとしたとき。

- モジュールに装着されている使用不可能なプロセッサに対してセッションを確立しようとしたとき。

%PM_SCP-1-LCP_FW_ERR: System resetting module [dec] to recover from error: [chars]

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %PM_SCP-1-LCP_FW_ERR: System resetting module [dec] to recover from error: [chars]
次の例は、この問題が発生した際に表示されるコンソール出力を示しています。

- %%PM_SCP-SP-1-LCP_FW_ERR: System resetting module 13 to recover from error: Linecard received system exception **または**
- %%PM_SCP-SP-1-LCP_FW_ERR: System resetting module 4 to recover from error: Coil Pb Rx Parity Error - Port #14

説明

このメッセージは、特定のモジュールのファームウェアによってエラーが検出されたことを示します。システムは自動的にモジュールをリセットして、エラー状態から回復します。[dec] はモジュール番号、[chars] はエラーの内容です。

回避策

モジュールを取り付け直すか、別のスロットに取り付けて、モジュールに対するブートアップ診断テストを通過できるようにします。Catalyst 6500 シリーズ スイッチに対するオンライン診断についての詳細は、『[オンライン診断の設定](#)』を参照してください。モジュールが診断テストを通過したら、このエラーメッセージが再度発生するかどうか監視してください。これらのエラーメッセージが再発するか、診断テストで問題が検出される場合は、さらにトラブルシューティングを進めるために、[Cisco テクニカル サポート](#) でサービス リクエストを作成してください。

%%PM_SCP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module [dec] is experiencing the following error: [chars]

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %%PM_SCP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module [dec] is experiencing the following error: [chars]
この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

- %%PM_SCP-SP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module 4 is experiencing the following error: Bus Asic #0 transient Pb error

説明

このモジュールはエラー状態をレポートします。ここで、[dec] はモジュール番号、[chars] はエラーを示します。この状態は通常、不適切に装着されたラインカードまたはハードウェア障害によって発生します。エラーメッセージがすべてのラインカードで表示された場合、原因は不適切に装着されたモジュールです。

回避策

ラインカードまたはモジュールを再装着して、リセットします。次に、`show diagnostic result module module_#` コマンドを発行します。

モジュールをリセットした後もエラーメッセージが引き続き表示される場合は、さらにトラブルシューティングを進めるために、[Cisco テクニカル サポート](#) でサービス リクエストを作成してください。

%%PM_SCP-SP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module [dec] is experiencing the following error: [chars]

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%PM_SCP-SP-2-LCP_FW_ERR_INFORM: Module 4 is experiencing the following error: Port #36  
transient TX Pb error
```

説明

このエラーメッセージは、ポート 36 のデータパスにあるモジュール番号 4 の一時的なエラーを示します。ほとんどの場合、1 回限りの一時的な問題です。

回避策

1. ポート Gi4/36 を閉じたり、開いたりして、問題が再発するかどうかを監視します。
2. エラーが再発生する場合、診断を設定して、[diagnostic bootup level complete](#) コマンドを実行します。次に、ラインカードを物理的に再装着します。
3. モジュールを再装着した後もエラーメッセージが引き続き表示される場合は、次のコマンド出力を使用して、さらにトラブルシューティングを進めるために、[Cisco テクニカル サポート](#) でサービス リクエストを作成してください。[show loggingshow diagnostic result module 4show module](#)

%PM_SCP-SP-4-UNK_OPCODE: Received unknown unsolicited message from module [dec], opcode [hex]

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %PM_SCP-SP-4-UNK_OPCODE: Received unknown unsolicited message from module [dec],

opcode [hex]

次の例は、この問題が発生した際に表示されるコンソール出力を示しています。

- Dec 10 12:44:18.117: %PM_SCP-SP-4-UNK_OPCODE: Received unknown unsolicited message from module 2, opcode 0x330 **または**
- Dec 10 12:44:25.210: %PM_SCP-SP-4-UNK_OPCODE: Received unknown unsolicited message from module 2, opcode 0x114

説明

このエラーメッセージは、ラインカードからコントロールメッセージが送られたものの、このスイッチの Cisco IOS ソフトウェア リリースではその機能がサポートされていないために、スーパーバイザエンジンで認識されないことを示します。

ラインカードでは、ソフトウェアでその機能をサポートしているとなっているアクティブなスーパーバイザエンジンにコントロールメッセージを送ります。しかし、ソフトウェアでそのラインカードの機能がサポートされていないと、これらのコントロールメッセージは認識されず、このエラーメッセージが表示されます。このメッセージは無害なもので、スーパーバイザエンジンやラインカードの機能への影響はありません。

回避策

スーパーバイザエンジンのソフトウェアを、最大限の機能をサポートしている最新バージョンにアップグレードします。このエラーメッセージは実働環境やトラフィックに悪影響を与えるものではないため、無視しても構いません。

%PM_SCP-SP-3-TRANSCEIVER_BAD_EEPROM: Integrity check on transceiver in LAN port 5/2 failed: bad key

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %PM_SCP-SP-3-TRANSCEIVER_BAD_EEPROM: Integrity check on transceiver in LAN port 5/2 failed: bad key

説明

このエラーメッセージは、サポートされていないシスコ以外の SFP GBIC の使用が原因で表示されます。

Cisco SFP GBIC は、シスコの着脱可能な部品を識別するために Cisco IOS/CAT OS をイネーブルにする独自の暗号化コード (品質 ID) を備えています。標準 GBIC には装備されていないため、これらが動作する場合があります。詳細については、『[%PM_SCP-SP-3-TRANSCEIVER_BAD_EEPROM](#)』を参照してください。

%PM_SCP-SP-3-LCP_FW_ABLIC: [Late collision message from module \[dec\], port:035](#)

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %PM_SCP-SP-3-LCP_FW_ABLIC: Late collision message from module 3, port:035

説明

レイト コリジョン-レイト コリジョンは 2 つのデバイスが同時に送信する、どちらも接続の側衝突を検出すると発生し。このコリジョンが発生するのは、ネットワークの一端からもう一方の端まで信号を伝搬する時間が、パケット全体をネットワークに送出する時間よりも長いからです。レイト コリジョンの原因である 2 つのデバイスは、パケット全体をネットワークに送出する後まで、もう一方が送信を行っていることを認識できません。レイト コリジョンは、64 バイトが流れる最初のスロット タイムの後、トランスミッタにより検出されます。これは、レイト コリジョンが検出されるのが、64 バイトよりも長いパケットの送信中だけに限られるためです。

考えられる原因-レイト コリジョンはネットワークのハブの二重モードの mismatch、不正確なケーブル接続または不適合な数があるとき結果のです。NIC の不良によってレイト コリジョンが起きる場合もあります。

[%%PM-3-INVALID_BRIDGE_PORT: Bridge Port number is out of range](#)

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%PM-3-INVALID_BRIDGE_PORT: Bridge Port number is out of range
```

説明

この問題は表面的なものであり、mib dot1dTpFdbEntry の SNMP ポーリングが原因です。

回避策

このデバイスでポーリングされる OID をブロックできます。この不具合は Cisco IOS リリース 12.2(33) SRD04 以降で解決されています。

%QM-4-TCAM_ENTRY: Hardware TCAM entry capacity exceeded

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

- %QM-4-TCAM_ENTRY: Hardware TCAM entry capacity exceeded

説明

TCAM は、ACL と QoS エンジンによる高速テーブル検索用に設計された専用メモリです。このメッセージでは、TCAM リソースが使い尽くされて、パケットのスイッチングがソフトウェアで行われたことが表示されています。つまり、各インターフェイスには TCAM に独自の ID があり、そのため、TCAM リソースがさらに必要であることになります。 [mls qos marking statistics](#) コマンドが存在することか、すべての設定済み ACL を処理する容量がハードウェア TCAM にはないというのが、この問題が発生する原因として最も可能性があります。

回避策

- デフォルトではイネーブルになっている [mls qos marking statistics](#) コマンドをディセーブルにします。
- TCAM リソースの競合状態を緩和するために、複数のインターフェイスで同一の ACL を共有します。

%slot_earl_icc_shim_addr: [Slot \[num\] is neither SuperCard nor Supervisor - Invalid slot](#)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %slot_earl_icc_shim_addr: Slot [num] is neither SuperCard nor Supervisor - Invalid Slot

説明

このメッセージは、SNMP Manager から、TCAM 情報を持たないラインカードの TCAM データに対してポーリングを行ったときに発生します。このメッセージは、Cisco IOS ソフトウェアが稼働している Catalyst 6500 スイッチに装着されているラインカードに対してだけ発生します。SNMP ポーリングの際にラインカードに TCAM 情報があれば、データは network management system (NMS; ネットワーク管理システム) に渡され、処理されます。詳細は、Cisco Bug ID [CSCec39383](#) ([登録ユーザ専用](#)) を参照してください。この問題は、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(18) で解決されています。

回避策としては、NMS からの TCAM データのクエリーをブロックする方法があります。TCAM の使用量データを提供する MIB オブジェクトは cseTcamUsageTable です。トレースバックを回避するには、ルータ上で次の手順を実行してください。

1. snmp-server view tcamBlock cseTcamUsageTable excluded コマンドを発行します。
2. snmp-server view tcamBlock iso included コマンドを発行します。
3. snmp-server community public view tcamBlock ro コマンドを発行します。
4. snmp-server community private view tcamBlock rw コマンドを発行します。

%SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
Feb 23 21:55:00: %SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR
Feb 23 22:51:32: %SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR
Feb 23 23:59:01: %SYSTEM_CONTROLLER-SP-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR
```

説明

MSFC 上の Mistral ASIC で発生する最も一般的なエラーには、TM_DATA_PARITY_ERROR、SYSDRAM_PARITY_ERROR、SYSAD_PARITY_ERROR、および TM_NPP_PARITY_ERROR があります。これらのパリティ エラーの原因として考えられる原因は、ランダムに発生する静電気放電や他の外的要因です。このエラー メッセージには、パリティ エラーが発生したことが示されています。プロセッサ メモリ パリティ エラー (PMPE) は、次の 2 種類に分類されます。シングル イベント アップセット (SEU) および繰り返されるエラー。

たとえば 0 が勝手に 1 に変わるような外部イベントによりデータ ワード内のビットが不意に変わる際に、これらのシングル ビット エラーが発生します。SEU は、ベンダーやテクノロジーにかかわらず普遍的に発生する現象です。SEU はめったに発生するものではありませんが、PC を含むすべてのコンピュータとネットワーク システムで発生する可能性があります。SEU はソフト エラーとも呼ばれ、ノイズが原因で、データで一時的に不規則なエラーが発生します。これはコンポーネント障害とは無関係で、最も多い原因は宇宙線放射です。

障害のあるコンポーネントが原因で繰り返し発生するエラー (よく、ハード エラーと呼ばれます)。ハード エラーは障害のあるコンポーネントや基板レベルの問題により発生します。これには、同じエラーを何度も発生させるような、不適切に製造されたプリント基板があります。

回避策

このエラー メッセージが表示されたのが 1 回だけ、またはまれにしか表示されない場合は、スイッチの syslog を監視して、エラー メッセージが単発の事象であることを確認してください。これらのメッセージが再発する場合は、そのスーパーバイザ エンジン ブレードを取り付け直してください。これでエラーの発生がなくなれば、ハード パリティ エラーであったことになります。これらのエラー メッセージの再発が続くようであれば、[Technical Assistance Center](#) でサービス リクエストをオープンしてください。

%%SYSTEM_CONTROLLER-SW2_SPSTBY-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %%SYSTEM_CONTROLLER-SW2_SPSTBY-3-ERROR: Error condition detected: TM_NPP_PARITY_ERROR

説明

このエラー メッセージは、パリティ エラーが発生し、考えられる原因がランダムに発生する静電

気放電や他の外的要因であることを示します。これにより、一時的な背面パネルの接続などのメモリ パリティ エラーが発生したり、または電源の問題が原因で発生したり、ラインカードがモジュールのシリアル PROM (SPROM) の内容にアクセスできず、ラインカードの ID を特定できない場合があります。

すべてのコンピュータとネットワーク システムは、パリティ エラーとして表現される場合がある、まれに発生するシングル イベント アップセット (SEU) の影響を受けやすくなっています。たとえば 0 が勝手に 1 に変わるような外部イベントによりデータ ワード内のビットが不意に変わる際に、これらのシングル ビット エラーが発生します。SEU は、ベンダーやテクノロジーにかかわらず普遍的に発生する現象です。SEU はめったに発生するものではありませんが、PC を含むすべてのコンピュータとネットワーク システムで発生する可能性があります。SEU はソフト エラーとも呼ばれ、ノイズが原因で、データで一時的に不規則なエラーが発生し、コンポーネント障害とは無関係です。

障害のあるコンポーネントが原因で繰り返し発生するエラーです (通常ハード エラーと呼ばれます)。ハード エラーは障害のあるコンポーネントや基板レベルの問題により発生します。これには、同じエラーを何度も発生させるような、不適切に製造されたプリント基板があります。

回避策

これらのメッセージが再発する場合は、メンテナンス ウィンドウ中にスーパーバイザ エンジン ブレードを再装着してください。

SP: Linecard endpoint of Channel 14 lost Sync. to Lower fabric and trying to recover now!

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- SP: Linecard endpoint of Channel 14 lost Sync. to Lower fabric and trying to recover now!

説明

このエラー メッセージでは、通常、ラインカードの取り付けが不適切であることが指摘されています。ほとんどの場合、ラインカードを物理的に取り付け直せば、問題が解決します。モジュールに問題がある場合もあります。

1. このエラー メッセージを発生させているモジュールを判別するために、**show fabric fpoe map** コマンドを発行します。Switch#configure terminal Switch(config)#service internal Switch(config)#end Switch#show fabric fpoe map Switch#configure terminal Switch(config)#no service internal Switch(config)#end 次の例は、**show fabric fpoe map** コマンドによる出力結果です。この出力より、このエラー メッセージが引き起こしているのはスロット 12 のモジュールであることがわかります。switch#show fabric fpoe map slot channel fpoe 12 0 14 << There are also related errors in "show fabric channel-counters" : slot channel rxErrors txErrors txDrops lbusDrops 1 0 1 0 0 0 2 0 16 0 0 0 3 0 16 0 0 0
2. このエラー メッセージを引き起こしているモジュールを取り付け直します。

[%%SYSTEM-1-INITFAIL: Network boot is not supported](#)

問題

Cisco Catalyst 6000/6500 スイッチのブート中に、類似のエラー メッセージが表示される場合があります。

```
%SYSTEM-1-INITFAIL: Network boot is not supported. Invalid device specified Booting from default device Initializing ATA monitor library... monlib.open(): Open Error = -13 loadprog: error - on file open boot: cannot load "bootdisk:s72033-ipserVICESK9-mz.122-18.SXF7.bin"
```

説明

このエラーが発生するのは、ほとんど、有効なフラッシュ デバイスからスイッチをブートするのにブート変数が不適切に設定されている場合です。

説明で、メッセージの最後の行に注意してください。

```
boot: cannot load "bootdisk:s72033-ipserVICESK9-mz.122-18.SXF7.bin"
```

言及されているフラッシュ デバイスの名前は **bootdisk** であり、IOS ファイル名の最初の部分の **s72033** は IOS がスーパーバイザ モジュール 720 用であることを示します。スーパーバイザ 720 モジュールは、**bootdisk** という名前のフラッシュ デバイスを搭載せず、またはサポートしていません。Supervisor 720 モジュールにはこの名前のローカル フラッシュがないので、スイッチでは、ネットワークからブートするものと見なされ、このエラー メッセージが表示されます。

解決策

正しいフラッシュ デバイス名と有効なソフトウェア ファイル名でブート変数を設定します。

スーパーバイザ モジュールでサポートされているのは、次のフラッシュ デバイスです。

- Supervisor Engine 1 および Supervisor Engine 2
- Supervisor Engine 720
- Supervisor Engine 32

これで問題が解決しない場合は、『[Cisco IOS システム ソフトウェアが動作している Catalyst 6500 または 6000 での、ブート ローダー イメージの破損や欠落あるいは ROMmon モードからの回復](#)』を参照してください。

CPU_MONITOR-3-TIMED_OUT または CPU_MONITOR-6-NOT_HEARD

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
CPU_MONITOR-3-TIMED_OUT: CPU monitor messages have failed, resetting system  
CPU_MONITOR-6-NOT_HEARD: CPU monitor messages have not been heard for [dec] seconds
```

説明

これらのメッセージは、相当の時間、CPU モニタ メッセージが受信されなかったことを示しています。ほとんどの場合、タイムアウトが発生し、システムがリセットされます。[[dec] は秒数です。

この問題には、次の原因が考えられます。

- 不適切に取り付けられたラインカードやモジュール
- 不正な ASIC やバックプレーン
- ソフトウェアの不具合
- パリティ エラー
- イーサネット帯域外チャネル (EOBC) での高トラフィックEOBC チャネルは、他の多くの機能を処理する半二重チャネルで、Simple Network Management Protocol (SNMP) トラフィックやスイッチを宛先とするパケットがこれに含まれます。SNMP トラフィックの集中により EOBC チャネルがメッセージでいっぱいになると、チャネルでコリジョンが発生する可能性があります。これが発生すると、EOBC では IPC メッセージの搬送ができなくなる可能性があります。これにより、スイッチでエラー メッセージが表示されます。

回避策

ラインカードやモジュールを取り付け直します。メンテナンス時間帯がスケジュールできる場合は、スイッチをリセットして一時的な問題をすべてクリアします。

% Invalid IDPR0M image for linecard

問題

Cisco IOS システム ソフトウェアが稼働する Catalyst 6500 シリーズ スイッチで、「%Invalid IDPR0M image for linecard」エラー メッセージを受け取りました。

エラー メッセージには、次のようなものがあります。

```
% Invalid IDPR0M image for daughterboard 1 in slot 4 (error = 4)
% Invalid IDPR0M image for linecard in slot 5 (error = 4)
% Invalid IDPR0M image for daughterboard 1 in slot 5 (error = 4)
```

説明

このエラーは、スーパーバイザからコントロール バスに不正な信号が生成されたため、インストールされているラインカードが正しくブートされなかったことを示しています。シナリオによっては、不適切な取り付けが原因でもスーパーバイザやラインカードが Cat6500 シャーシで認識されない場合があります。詳細は、Cisco Bug ID [CSCdz65855](#) ([登録ユーザ専用](#)) を参照してください。

回避策

冗長スーパーバイザ構成が利用可能な場合は、強制スイッチオーバーを実行して、元のアクティブ側スーパーバイザを取り付け直します。

単一スーパーバイザ構成の場合は、ダウンタイムをスケジュールして、下記のステップを実行します。

1. スーパーバイザ モジュールを別のスロットに移します。
2. すべてのラインカードを取り付け直して、適切に取り付けられていることを確認します。モジュールの活性挿抜 (ホットスワップ) についての詳細は、『[Cisco Catalyst でのモジュール](#)』

[ルの活性挿抜 \(OIR\)』を参照してください。](#)

%%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD or %CPU_MONITOR-SP-3-TIMED_OUT

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD: CPU_MONITOR messages have not been heard for 61 seconds [2/0]
%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD: CPU_MONITOR messages have not been heard for 151 seconds [2/0]
%CPU_MONITOR-SP-3-TIMED_OUT: CPU_MONITOR messages have failed, resetting module [2/0]
%OIR-SP-3-PWRCYCLE: Card in module 1, is being power cycled off (Module not responding to
Keep Alive polling) %OIR-SP-3-PWRCYCLE: Card in module 2, is being power-cycled off (Heartbeat
Messages Not
Received From Module)
```

説明

スーパーバイザは 2 秒に 1 回各ラインカードに SCP ping を送信します。3 回の ping (6 秒) 後に応答が受信されない場合、最初の障害としてカウントされます。このような障害が 25 回続いた後、またはラインカードからの応答を受信しなくなってから 150 秒後に、スーパーバイザはラインカードの電源を再投入します。毎 30 秒後に、次のエラーメッセージがスイッチで表示されます。

```
%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD: CPU_MONITOR messages have not been heard for 61 seconds [2/0]
%CPU_MONITOR-SP-6-NOT_HEARD: CPU_MONITOR messages have not been heard for 151 seconds [2/0]
150 秒後に、モジュールの電源が再投入され、次の syslog が表示されます。
```

```
%CPU_MONITOR-SP-3-TIMED_OUT: CPU_MONITOR messages have failed, resetting module [2/0]
%OIR-SP-3-PWRCYCLE: Card in module 1, is being power-cycled off (Module not responding to
Keep Alive polling) %OIR-SP-3-PWRCYCLE: Card in module 2, is being power-cycled off (Heartbeat
Messages Not
Received From Module)
```

%%C6KPWR-4-DISABLED: Power to module in slot [dec] set [chars]

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%C6KPWR-4-DISABLED: Power to module in slot [dec] set [chars]
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%C6KPWR-SP-4-DISABLED: power to module in slot 10 set off (Fabric channel errors)
%C6KPWR-SP-4-DISABLED: power to module in slot 2 set off (Module Failed SCP dnld)
%C6KPWR-SP-4-DISABLED: power to module in slot 9 set off (Module not responding to Keep
Alive polling)
```

説明

このメッセージは、示されているスロットにあるモジュールが、示されている理由により電源オフされたことを示しています。[dec] はスロット番号で、[chars] は電源ステータスを示していま

す。

スイッチには通常の振動があり、時間経過とともに、この振動によりモジュールがバックプレーンからわずかに抜け出す場合があります。これが起きると、スーパーバイザのキープアライブ ポーリングに対して、割り当てられた時間内にモジュールからの応答が受信されず、スーパーバイザでは、接続を復旧するためにモジュールのリポートを行います。それでもモジュールがポーリングに対して応答しない場合、スーパーバイザはモジュールのリポートを継続しますが、結果的にはモジュールを error disable にして、このモジュールへの電力供給を遮断します。

回避策

単にモジュールを取り付け直すだけで、この問題の 90 % は解決されます。モジュールを取り付け直すと、スイッチ ファブリックの再アラインメントが行われ、バックプレーンとの確実な接続が保証されます。

対象のモジュールがコンテンツ スイッチング モジュール (CSM) である場合は、CSM ソフトウェアのリリース 4.1(7) 以降へのアップグレードを考慮してください。この問題は Cisco bug ID [CSCei85928 \(CSM ソフトウェアについて \)](#) ([登録ユーザ専用](#)) と Cisco bug ID [CSCek28863 \(Cisco IOS ソフトウェアについて \)](#) ([登録ユーザ専用](#)) に記載されています。

最新の CSM ソフトウェアは、[Cisco Catalyst 6000 コンテント スイッチング モジュール](#)のソフトウェア ダウンロード ページからダウンロードできます。

[ONLINE-SP-6-INITFAIL: Module \[dec\]: Failed to \[chars\]](#)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
ONLINE-SP-6-INITFAIL: Module [dec]: Failed to [chars]
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%ONLINE-SP-6-INITFAIL: Module 5: Failed to synchronize Port ASIC
```

説明

Pinnacle ASIC が同期に失敗したことが、クラッシュの原因です。これは通常、接触不良やカードの取り付け不良が原因です。

回避策

システムは、ユーザの介入なしで復旧します。このエラー メッセージが再発する場合は、対象のラインカードやモジュールを取り付け直してください。

FM_EARL7-4-FLOW_FEAT_FLOWMASK_REQ_FAIL

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
%FM_EARL7-4-FLOW_FEAT_FLOWMASK_REQ_FAIL: Flowmask request for the flow based
feature [chars] for protocol [chars] is unsuccessful, hardware acceleration may be disabled
for the feature
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%FM_EARL7-4-FLOW_FEAT_FLOWMASK_REQ_FAIL: Flowmask request for the flow based
feature Reflexive ACL for protocol IPv4 is unsuccessful, hardware acceleration may be disabled
for the feature
```

説明

フローベース機能のフロー マスク要求が成功していません。この状況が発生する原因は、TCAM リソース例外、フロー マスクレジスタ リソース例外、あるいは、他の NetFlow ベースの機能との解決不能なフロー マスク競合です。この状況では、NetFlow ショートカット インストールと機能のハードウェア アクセラレーションをディセーブルにでき、機能をアプリケーションに適用できません。

異なるインターフェイスの入力方向で再帰と評価を行っている場合、つまり、入力方向にのみ再帰 ACL が設定されている場合、再帰 ACL フローマスク要求は入力再帰 ACL に基づくものです。QoS マイクロフロー ポリシング以外のインターフェイスでリフレクシブ ACL が設定されていて、マイクロフロー ポリシングのポリシー ACL とオーバーラップしていない限り、同じインターフェイスでは、ハードウェアでの共存が可能です。同じインターフェイス上にあって、リフレクシブ ACL と QoS ポリシーがオーバーラップしている場合、リフレクシブ ACL により NetFlow ショートカット インストールがディセーブルにされ、リフレクシブ ACL と照合するトラフィックはソフトウェアでスイッチングされます。これは競合するフローマスク要求によるものです。

出力リフレクシブ ACL の場合は、入力 NetFlow しかないので、リフレクシブ ACL フローマスク要求はすべてのインターフェイスでグローバルです。この場合、QoS ユーザベースのマイクロフロー ポリシングが設定されていると、リフレクシブ ACL により NetFlow ショートカット インストールがディセーブルにされ、リフレクシブ ACL と照合するトラフィックはソフトウェアでスイッチングされます。

回避策

その機能に関して NetFlow ショートカット インストールがイネーブル ステータスなのか、ディセーブル ステータスなのかを判別するために、`show fm fie flowmask` コマンドを発行します。その機能に関して NetFlow ショートカット インストールとハードウェア アクセラレーションがディセーブルにされている場合、入力リフレクシブ ACL だけをマイクロフロー ポリシングとともに使用して、マイクロフロー ポリサーがリフレクシブ ACL とオーバーラップしていないことを確認します。フローマスク要求のためにその機能を再適用して続行し、その機能のための NetFlow ショートカット インストールを再度イネーブルにします。

MCAST-2-IGMP_SNOOP_DISABLE

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
%MCAST-2-IGMP_SNOOP_DISABLE:IGMP Snooping disabled due to excessive events/packets,
[dec]/[dec]; auto reenable in about 2 mins
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%MCAST-2-IGMP_SNOOP_DISABLE:IGMP Snooping disabled due to excessive events/packets,
```

説明

IGMP スヌーピングがディセーブルにされていますが、システムではマルチキャストトラフィックが受信されます。この状況では、マルチキャストトラフィックは強制的にルートプロセッサにダイレクトされ、ルートプロセッサでフラッドが発生する可能性があります。過剰なマルチキャストトラフィックがあると、IGMP スヌーピングが自動的にディセーブルされる場合があります。IGMP スヌーピングは、ルータとホスト間でやり取りされる、ジョイン、リーブ、クエリ等のコントロールパケットを監視しており、どのポートからマルチキャストが転送されるかは、これらの情報に基づいています。

通常は、予想されるレートよりもはるかに高い IGMP 加入パケット、あるいは予約済みのレイヤ 3 かレイヤ 2 のマルチキャストアドレス範囲を宛先とする通常のマルチキャストパケットがルートプロセッサで受信されたことが、このメッセージが発生する理由です。これにより、スイッチではリソースが使い果たされ、ロギングメッセージで報告されるように、スイッチでは IGMP スヌーピングが抑制され、短期間、ディセーブルにされます。

回避策

マルチキャストレート制限機能をイネーブルにして、閾値をより大きい数値にすることができます。

レート制限はキューでオーバーランを発生させない、より望ましい方式です。さらに、これにより有効な IGMP パケットが廃棄される機会は少なくなり、スイッチでのスヌーピングプロセスでは引き続き適切なアップデートが可能です。

この問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順を実行します。

1. コマンド `no ip igmp snooping` で、IGMP スヌーピングをディセーブルにします。
2. MAC アドレスが過剰なトラフィックの送信元に属していることを判別するために、Catalyst 6500 の管理 VLAN インターフェイスに SPAN セッションを設定します。
3. 送信元を判別するために CAM テーブルを調べて、その送信元を削除します。
4. IGMP スヌーピングを再度イネーブルにします。

[C6KERRDETECT-2-FIFOCRITLEVEL: System detected an unrecoverable resources error on the active supervisor pinnacle](#)

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージは、次の 2 つのタイプのいずれかが考えられます。

```
C6KERRDETECT-2-FIFOCRITLEVEL: System detected an unrecoverable resources error on the active supervisor pinnacle C6KERRDETECT-2-FIFOCRITLEVEL: System detected unrecoverable resources error on active supervisor port-asic
```

説明

このエラーの根本的な原因は、モジュールが不良であるか、または正しく装着されていないことによる可能性があります。特定のスロットのシャーシに問題がある可能性もあります。モジュー

ルの装着ミスによる場合は、一時的な問題である可能性があります。

これらのメッセージは、システムが、表示された Pinnacle ASIC または指定されたポート ASIC で先入れ先出し (FIFO) 問題が発生したことによる回復不可能なリソースを検出したことを示します。

回避策

このエラーを解決するには、**remote command switch show platform hardware asicreg pinnacle slot 1 port 1 err** コマンドを発行して、次の手順により拡張ハードウェア テストを実行するようにスイッチを設定します。

注: コマンド全体を入力し、Enter キーを押します。Tab キーでコマンドを書き込むことができません。

1. 診断レベルを実行するには、**diagnostic bootup level complete** コマンドを発行し、設定を保存します。
2. スーパーバイザを再装着して、しっかりと挿入します。
3. スーパーバイザがオンラインになったら、**show diagnostic** コマンドを発行して、スイッチを監視し、エラー メッセージが引き続き表示されるかどうかを確認します。

%%C6KERRDETECT-SP-4-SWBUSSTALL: The switching bus is experiencing stall for 3 seconds

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %%C6KERRDETECT-SP-4-SWBUSSTALL: The switching bus is experiencing stall for 3 seconds
- % C6KERRDETECT-SP-4-SWBUSSTALL_RECOVERED: The switching bus stall is recovered and data traffic switching continues

説明

「%C6KERRDETECT SP 4 SWBUSSTALL」メッセージは、スイッチング バスが停止し、データトラフィックが失われたことを示します。

「%C6KERRDETECT-SP-4-SWBUSSTALL_RECOVERED」メッセージは、スイッチング バスが停止しなくなり、データトラフィックが続行できることを示します。

基本的に、システム上のいずれかのモジュールがハングした場合、スーパーバイザはタイムアウトを検出し、スーパーバイザ自体での復旧を試みます。モジュールを取り付け中にこれらのメッセージが表示された場合、バックプレーンにモジュールを装着するときにバスストールが発生する可能性が高いため、これが考えられる原因になります。

[SP-RP Ping Test\[7\]: Test skipped due to high traffic/CPU utilization](#)

問題

このエラーメッセージは、インバンドテスト ping が高 CPU 使用率のために失敗したときに表示されます。

```
SP-RP Ping Test[7]: Test skipped due to high traffic/CPU utilization
```

説明

バンド ping の SP-RP はオンライン診断テストであり、「SP-RP ping test failed」というメッセージは単に情報を提供するためのものです。これは高 CPU 使用率であることを示し、大量のトラフィックがルートプロセッサに渡された結果であるか、またはトラフィックの流れがスイッチプロセッサに切り替えられた結果である可能性があります。これは、ルート更新中にも発生する場合があります。通常、ルートプロセッサの CPU は 100% まで使用されます。

回避策

次のエラーメッセージは、単に情報を提供するためのものであり、デバイスのパフォーマンスには影響はありません。

SW VLAN-4-MAX SUB INT

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%SW_VLAN-4-MAX_SUB_INT : The number of sub-interfaces allocated for interface [chars] has exceeded recommended limits of [dec]
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%SW_VLAN-4-MAX_SUB_INT: The number of sub-interfaces allocated for interface Gi1/1 has exceeded recommended limits of 1000
```

説明

レイヤ 3 のサブインターフェイスの数は、スイッチの内部 VLAN によって制限されます。Catalyst 6500 シリーズには、さまざまな目的で使用される 4094 VLAN が用意されています。現在のステータス VLAN のアベイラビリティを確認するには、**show platform hardware capacity vlan** コマンドを発行します。

```
Switch#show platform hardware capacity vlan VLAN Resources VLANs: 4094 total, 9 VTP, 0 extended, 17 internal, 4068 free
```

回避策

サブインターフェイスの推奨制限は、各インターフェイスに対して 1000 および各モジュールに対して 2000 です。推奨制限を超えたため、インターフェイスに割り当てられたサブインターフェイスの数を減らします。

注: スwitchのリロード時に表示されるこれらのメッセージのフラッシュのため、コンソールがロックされる場合があります。この問題は、Cisco Bug ID [CSCek73741](#) ([登録ユーザ専用](#)) に記載され、問題は Cisco IOS ソフトウェア リリースで 12.2(18)SXF10 および Cisco IOS ソフトウェア 12.2(33)SXH 以降で解決されています。

MCAST-6-L2_HASH_BUCKET_COLLISION

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
MCAST-6-L2_HASH_BUCKET_COLLISION: Failure installing (G,C)->index:  
([enet],[dec])->[hex] Protocol :[dec] Error:[dec]
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%MCAST-SP-6-L2_HASH_BUCKET_COLLISION: Failure installing (G,C)->index:  
(0100.5e31.d522,802)->0xDA4 Protocol :0 Error:3
```

このエラーメッセージは、通常、次のメッセージとともに表示されます。

```
%MCAST-SP-6-GC_LIMIT_EXCEEDED: IGMP snooping was trying to allocate  
more Layer 2 entries than what allowed (15488)
```

説明

このメッセージは、ハッシュバケットに十分な容量がないため、レイヤ2 エントリがハードウェアにインストールされなかったことを示します。マルチキャストパケットは、レイヤ2 エントリのインストールが失敗したため、着信 VLAN でフラッディングされます。制限を超えると、フラッディングは追加のグループ MAC で発生します。

回避策

マルチキャストを使用しない場合、IGMP スヌーピングをディセーブルにすることができます。それ以外の場合は、[ip igmp snooping l2-entry-limit](#) コマンドを使用してハッシュの制限を増やすことができます。

%%QM-4-AGG_POL_EXCEEDED: QoS Hardware Resources Exceeded : Out of Aggregate policers

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%QM-4-AGG_POL_EXCEEDED: QoS Hardware Resources Exceeded : Out of Aggregate policers
```

説明

一定数の集約ポリサーだけがサポートされます。EARL7 ベースのスイッチでは、この制限は 1023 までです。

回避策

QoS ベースのポートの代わりに、QoS ベースの VLAN を設定できます。次の手順を実行します。

1. レイヤ2 スイッチポートで設定されている各 VLAN にサービスポリシーを適用します。

2. 特定の VLAN に属する各ポートからサービス ポリシーを削除します。
3. `mls qos vlan-based` コマンドを使用して、VLAN ベースの QoS に対して各レイヤ 2 スイッチポートを設定します。

%%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: is not compatible with Gi2/1 and will be suspended (MTU of Gi2/2 is 1500, Gi2/1 is 9216)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: is not compatible with Gi2/1 and will be suspended (MTU of Gi2/2 is 1500, Gi2/1 is 9216)

説明

このエラー メッセージは、ポート チャネルのメンバの MTU が同じでないため、ポート チャネルに追加の障害が発生することを示します。デフォルトでは、すべてのインターフェイスが MTU のサイズを 1500 として使用します。MTU 値の不一致により、ポートをポート チャネルに追加できません。

回避策

これらのメンバ ポートで同じ MTU を設定します。

%%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: Gi1/4 is not compatible with Gi6/1 and will be suspended (flow control send of Gi1/4 is off, Gi6/1 is on)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

- %%EC-SP-5-CANNOT_BUNDLE2: Gi1/4 is not compatible with Gi6/1 and will be suspended (flow control send of Gi1/4 is off, Gi6/1 is on)

説明

このエラー メッセージは、速度またはフロー制御の不一致を示します。このため、原因はポート チャネルの追加障害です。

回避策

インターフェイス設定がポート チャネルに関与していることを確認します。

%%CFIB-7-CFIB_EXCEPTION: FIB TCAM exception, Some

entries will be software switched

問題

スイッチで次のエラーメッセージが表示されます。

```
%CFIB-7-CFIB_EXCEPTION: FIB TCAM exception, Some entries will be software switched
```

説明

このエラーメッセージは、インストールされているルート エントリの数がハードウェアの FIB 容量または指定されたプロトコルの最大ルート制限に到達していることを示します。制限に到達すると、一部のプレフィックスがドロップされます。

回避策

例外モードを終了するには、ルータをリロードします。プロトコルのルートの最大数を増やすには、グローバル コンフィギュレーション モードで [mls cef maximum-routes](#) コマンドを入力します。デフォルトでは、SUP の 1 つの PFC3 に 192K エントリの容量があります。ただし、[mls cef maximum-routes 239](#) コマンドを使用する場合、使用可能な TCAM エントリの最大値を利用するオプションが表示されます。最大ルートを調べるには、[show mls cef maximum-routes](#) コマンドを使用します。現在の使用状況を調べるには、[show mls cef summary](#) コマンドを使用して、CEF テーブル情報の概要を表示します。

[Module Fails the TestMatchCapture Test](#)

問題

次の `show diagnostic result module module_#` の出力に示されるように、モジュール 5 (スーパーバイザ) が `TestMatchCapture` 診断テストで失敗します。

```
TestMatchCapture -----> F

Error code -----> 59 (DIAG_L2_INDEX_MISMATCH_ERROR)

Total run count -----> 1

Last test execution time ----> Jun 25 2011 04:49:10

First test failure time -----> Jun 25 2011 04:49:10

Last test failure time -----> Jun 25 2011 04:49:10

Last test pass time -----> n/a

Total failure count -----> 1

Consecutive failure count ----> 1
```

説明

`TestMatchCapture` テストは、次のように `TestProtocolMatchChannel` と `TestCapture` テストを組み合わせたものです。

- **TestProtocolMatchChannel** - TestProtocolMatchChannel テストはレイヤ2 フォワーディングエンジンの特定のレイヤ2 プロトコルを一致する機能を確認します。スーパーバイザエンジンのテストを実行すると、診断パケットは、スーパーバイザエンジンのインバンドポートから送信され、レイヤ2 フォワーディングエンジンによるパケット ルックアップを実行します。DFC 対応モジュールの場合、診断パケットは、スーパーバイザエンジンのインバンドポートからスイッチ ファブリックを介して送信され、DFC のポートの1つからループバックされます。Match 機能は、レイヤ2 フォワーディングエンジンによる診断パケットのルックアップ中に確認されます。
- **TestCapture** - TestCapture テストはレイヤ2 フォワーディングエンジンのキャプチャ機能がきちんと動作していることを確認します。キャプチャ機能は、マルチキャスト レプリケーションで使用されます。スーパーバイザエンジンのテストを実行すると、診断パケットは、スーパーバイザエンジンのインバンドポートから送信され、レイヤ2 フォワーディングエンジンによるパケット ルックアップを実行します。DFC 対応モジュールの場合、診断パケットは、スーパーバイザエンジンのインバンドポートからスイッチ ファブリックを介して送信され、DFC のポートの1つからループバックされます。Capture 機能は、レイヤ2 フォワーディングエンジンによる診断パケット検索の実行時に検証されます。

回避策

機会があるたびに、モジュールを再装着してください。このエラーは Minor Error であるため、パフォーマンスへの影響が見られない場合は無視できます。

%%CONST_DIAG-SP-3-HM_PORT_ERR: Port 5 on module 2 failed 10 consecutive times. Disabling the port

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
%CONST_DIAG-SP-3-HM_PORT_ERR: Port [dec] on module [dec] failed [dec]
consecutive times. Disabling the port.
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%CONST_DIAG-SP-3-HM_PORT_ERR: Port 5 on module 2 failed 10 consecutive
times. Disabling the port.
```

説明

このエラー メッセージは、ポートに対応するデータパスが失敗したことを示します。ポートが errdisable state になります。

回避策

ラインカードをリセットして、問題が解消されているかどうかを確認します。

%%CONST_DIAG-SP-4-ERROR_COUNTER_WARNING: Module 7 Error counter exceeds threshold, system operation continue

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
%CONST_DIAG-SP-4-ERROR_COUNTER_WARNING: Module 7 Error counter
exceeds threshold, system operation continue.
%CONST_DIAG-SP-4-ERROR_COUNTER_DATA: ID:42 IN:0 PO:255 RE:200 RM:255 DV:2 EG:2 CF:10 TF:117
```

説明

診断結果を確認してください。

```
TestErrorCounterMonitor -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 33658
Last test execution time -----> Apr 15 2012 11:17:46
First test failure time -----> Apr 03 2012 20:11:36
Last test failure time -----> Apr 08 2012 19:24:47
Last test pass time -----> Apr 15 2012 11:17:46
Total failure count -----> 5
Consecutive failure count ----> 0
Error Records -----> n/a
```

TestErrorCounterMonitor は、ラインカードに保持されているエラー カウンタに対して定期的にポーリングして、システムの各モジュールのエラー/割り込みを監視します。

このエラー メッセージは、ラインカードの ASIC が不正な CRC を持つパケットを受信したときに表示されます。この問題は、このモジュールに固有である可能性があり、シャーシ内の他の障害のあるモジュールによってトリガーされる場合があります。これは、DBUS から Pinnacle ASIC によって受信された不正な CRC を持つフレームが原因である可能性もあります。つまり、エラー メッセージは、モジュール 7 のバス経由で不正なパケットが受信されていることを意味します。

このエラー メッセージの原因の 1 つは、モジュールの装着ミスにより、モジュールがシャーシのバックプレーンと正常に通信できないことです。この問題は、ラインカード (モジュールの装着ミス)、スーパーバイザ、またはデータバスが原因で発生します。ただし、どのコンポーネントがデータが破損して、不正な CRC を引き起こしているかを調べることは不可能です。

回避策

- まず、モジュール 7 を再装着し、ネジがしっかりと締め付けられていることを確認します。また、再装着する前に、診断を設定して、**diagnostic bootup level complete** コマンドを実行します。
- いったん再装着が行われると、モジュールで完全な診断が行われます。次に、モジュール 7 にハードウェアの問題がないかどうかを確認できます。

[%%SYS-3-PORT_RX_BADCODE: Port 3/43 detected 7602 bad code error\(s\) in last 30 minutes](#)

問題

スイッチで次のエラー メッセージが表示されます。

```
%SYS-3-PORT_RX_BADCODE:Port [dec]/[chars] detected [dec] bad code errors in last 30 minutes
```

この問題が発生したときに表示されるコンソール出力の例を次に示します。

```
%SYS-3-PORT_RX_BADCODE: Port 3/43 detected 7602 bad code error(s) in last 30 minutes
```

説明

このエラーメッセージは、ポートが未知のプロトコルエラーの影響を受けていることを示します。たとえば、Catalyst 6500 シリーズ スイッチは、未知または認識されないプロトコルを持つフレームを受信します。最初の [dec] はモジュール番号、[chars] はポート番号、2 番目の [dec] は直前の 30 分間に発生した未知のプロトコルを持つ着信パケットの数です。

このエラーメッセージの考えられる原因を次に示します。

- 速度とデュプレックスの設定の不一致によります。
- CDP が一方の端でイネーブルになっていて、もう一方の端でディセーブルになっています。
- DTP により、これはスイッチ インターフェイスで、デフォルトでイネーブルになっています。ルータは DTP を認識しないため、問題が発生する可能性があります。

回避策

インターフェイスで、ラント カウンタを確認します。このカウンタが増加している場合、インターフェイスにデュプレックスの不一致が存在する可能性があります。

関連情報

- [Cisco Catalyst 6500 シリーズ スイッチ](#)
- [エラーメッセージデコーダ \(登録ユーザ専用\)](#)
- [スイッチ製品に関するサポート ページ](#)
- [LAN スイッチングに関するサポート ページ](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)